

弥生人は語る 人骨から見る弥生と弥生文化

講演者 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長 松下 孝幸氏



弥生時代に 日本人の原型

歴史学は単に昔のことを勉強するのではなく、今、われわれが生きているために必要なことであり、未来を予測することを命題にすべきと考えています。人骨から日本人の顔、形のルーツを追いかけるため、これまで吉野ヶ里、花浦、託田西分遺跡をはじめ、全国各地で1万體以上の人骨を見てきました。

骨は人間にとって大切なものです。体の支柱であり、私たちの脳や臓器を保護しています。骨髄では血液もつくっており、筋肉を引く張る運動機能もあります。しかも、骨からはその人の性別、年齢、容貌、身長、筋肉の発達程度、栄養状態、骨に痕跡があれば病気や死因まで分かれます。

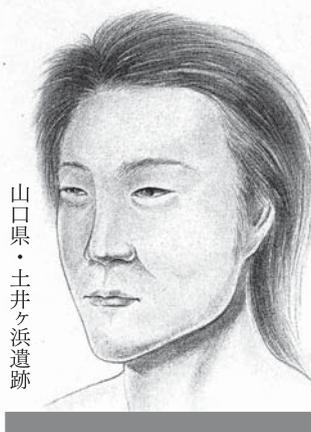
人骨を研究して分かったことですが、日本人の顔、形は縄文時代までは北海道から沖縄まで全国一緒でした。それが弥生時代にガラッと変わり、地域によって顔、形が違ってきました。その地域差は現代まで続いているので、日本人の顔、形の原型は弥生時代に形成されたと言えます。地域によってなぜ顔、形が違うようになったか、それを明らかにすれば日本人のルーツが見えてきます。そういう視点で、佐賀、福岡、長崎をはじめ、全国、アジアの遺跡、人骨を研究してきました。

3タイプの弥生人

遺体の埋葬状況、腕輪などの装身具や副葬品、顔形や上肢、下肢などいろいろなバリエーションがあるのを分析、整理した結果、九州・山口地域には3つのタイプの弥生人が存在するこ

とが分かりました。1つ目は佐賀、福岡、熊本県の平野部や山口県西海岸を含む北部九州・山口タイプ。2つ目は長崎県を中心とした西北九州タイプ、3つ目は南九州・南西諸島タイプです。

北部九州・山口の弥生人

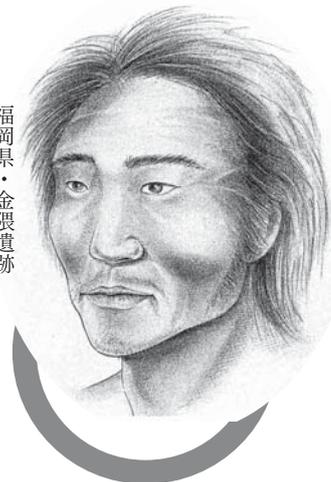


山口県・土井ヶ浜遺跡

長崎県や佐賀県玄海地方を主とした西北九州タイプの弥生人は顔は短いが、鼻は高く、彫りが深く、身長は男性が158cm、女性は148cm程度と低い。しかし、ヨーロッパ人のように鼻の高い縄文人の特徴を備えており、この地域の縄文人の子孫と考えられます。佐賀、長崎、熊本の海浜部遺跡に見られます。

南九州・南西諸島タイプの弥生人は顔形が広くて、身長は男性が153cm、女性が141cm、女性が145cm

北部九州・山口の弥生人



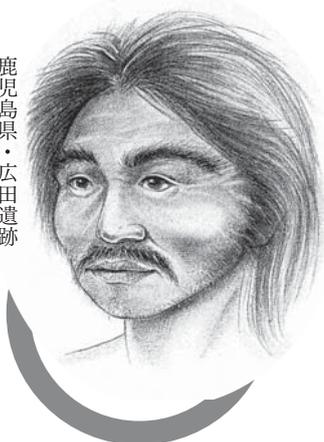
福岡県・金隈遺跡

と低く、鹿児島県の南端と琉球列島に見られます。縄文人の特徴はなく、渡来人の可能性ががあります。

吉野ヶ里や土井ヶ浜遺跡から出た人骨は沖縄近海で取れる貝、ゴホウラの腕輪をしています。2千年前、彼らは大きな海を隔てて沖縄の人たちをお互いに知っており、貿易をやっていたわけです。20年前にこのことを知ったとき、相当なショックでした。何で沖縄やゴホウラのことを知り、だれがどうやって運んだのでしょうか。

吉野ヶ里などの有力国家のリーダーが権威の象徴として、腕輪の材料であるゴホウラを欲しがり、その求めに応じて舟をうまく操れる西北九州の海人が相当な危険を冒して琉球と日本を往來したと考えています。

南九州・離島の弥生人



鹿児島県・広田遺跡

※注 弥生人のイメージ図は各遺跡出土の人骨をもとに図案化されたものです。

若いうちに「貯筋」「貯骨」を

私は20年ほど前、学生の顔、形が、縄文や江戸、明治時代の日本人と違ってきていることに気づきました。

今の35歳以下の世代です。今の高校生男子の平均身長は171センチにも伸びていますが、その人たちの体に異状が起きている、日本人はこのままだと崩壊する、端的に言って、早死にすると予感しています。

現代の子どもに見られる特徴として、顎が細く、小さくなった。つまり、下顎のかが削げ落ち、顎の先端が出てきて歯のかみ合わせが悪く



「沖縄周辺で取れたゴホウラ製の腕輪」

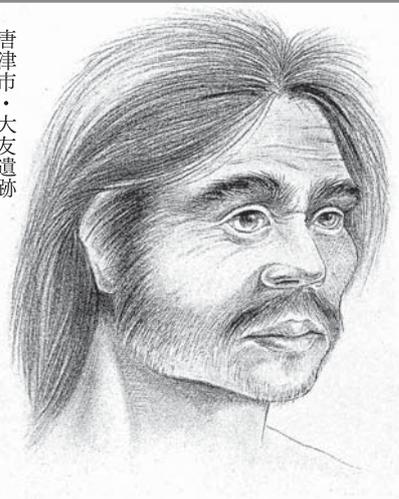
なっています。食べ物をかむ咀嚼能力が衰えてきました。歯並びも悪くなって、更なる咀嚼能力低下とともに、歯を食いしばることができない、ものがよくしゃべれないということにもなっています。弥生人の咀嚼回数約4千回ですが、現代は平均620回です。咀嚼力の低下は、消化器系への負担増大、栄養失調、脳機能の低下、認知症などさまざまな悪影響が心配されます。

次に足のサイズが大きくなっています。これは、歩かない、足にストレスがかからないことからきており、足の骨密度が高くなる、薄くて長くなり、足腰が衰えることにつながっています。更に足が上肢も下肢も同じ細さになり、歩くための足ではなく、見せるための足になっています。顔も全国均一化し、地域差がなくなってきました。

このような過去、現在から未来の日本人を予想した場合、どうなるでしょう。未来の日本人の顔、形は美しくなるかという点、確かに美男、美女化していきます。それは、顔が細長くなる、鼻が高くなる、手足が長くなり、プロポーションがよくなる、という意味においてです。

西北九州の弥生人

唐津市・大友遺跡



美男・美女化と短命化

美男、美女化する一方で、それを帳消しにするような、日本人の短命化現象が起きてくる恐れがあります。先に述べた咀嚼力の低下による栄養失調現象、足腰の軟弱化ということを考えてとき、「短命化する日本人」という未来像が浮かんできます。では、短命化を食い止めるにはどうしたらいいのでしょうか。その防止策は「食育」にあると思います。

給食を含めた食事の時間を長くすることがひとつです。固いものをゆっくりに食べることです。現代人は620回しかかまないといいましたが、時間にするると、11分ぐらいです。せめて20分はかけて食べましょう。しっかりかむことによって脳内に脳細胞の成長を促すホルモンが増加します。肥満やボケの防止に役立ちます。逆に言えば、早食いは早死にへの道ということです。

食材について、今、地産地消が叫ばれていますが、30年前は当たり前のことでした。地元で採れた旬の物を求めて、子どもと一緒に買い物に行き、一緒に食事を作ったらいかがでしょうか。お子さんの好きなハンバーグは2週間に一回くらいにして、この際、地元や日本の食文化に目を向けていただきたい。

次に大事なことは、散歩でも何でもよし、スポーツをライフスタイルやライフステージに応じて取り入れることです。だから体育の授業で運動嫌いをつくってはいけません。

古墳時代の日本人は短命でしたが、江戸時代の武家層は長命でした。しかし、その江戸時代にあっても14代将軍家茂は20歳の若さで亡くなりました。それはなぜか調べてみてください。長寿を保障するのは適切な栄養と適度な運動です。

若いときにはよくかんでよく食べ、体を動かして歩くこと。若いときの「貯筋」「貯骨」が大事だということ。それが長年の人骨研究で得た教訓のひとつです。

◎問い合わせ先

神埼市役所 市長公室
☎ 377-0102

※土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムは、山口県下関市にあり、日本で唯一の人類学専門の博物館です。